

(様式第3号)

令和7年度調査研究中間報告書

調 査 研 究 課 題	健康危機管理体制強化のための植物性自然毒検査法の構築							
担 当 者	江橋 博恵、竹林 直希、柳岡 知子、飛田 憲至、塚本 芳江、 岡崎 千里、湯浅 全世							
計 画 期 間	令和 6 年度～令和 10 年度 5 年間							
経 費	年 度	R6	R7	R8	R9	R10	計	
	計画額 (千円)	650	650	650	650	650	3,250	
	実績額 (千円)	650	—	—	—	—	—	
調 査 研 究 計 画	・ 自然毒による食中毒事案に対応するため、有毒植物や毒キノコ等の自然毒成分の LC-MS/MS 等による迅速な機器分析法を検討する。 ・ 理化学的手法での分析が困難な場合に備えて、遺伝子解析等の手法による植物種の同定法について検討する。 ・ 調理品などからの原因物質の抽出方法、機器分析、遺伝子同定法の検討を行う。							
進 捗 状 況	・ LC-MS/MS による自然毒一斉分析法において、新たに 2 成分を追加した。 ・ 3 種の毒キノコに含まれている有毒成分について、抽出方法、LC-MS/MS による分析条件の検討を実施し、鑑定済み毒キノコの成分分析を行った。 ・ ツキヨタケのリアルタイム PCR 法を用いた判別法を検討した。							
こ れ ま で の 成 果 の 概 要	・ LC-MS/MS による有毒植物の自然毒一斉分析法において、13 種類の植物性自然毒成分の分析が可能となった。 ・ 3 種の毒キノコに含まれている有毒成分について、LC-MS/MS による分析を検討し、鑑定済み毒キノコを分析し、有毒成分を検出できた。 ・ ツキヨタケの DNA をシリカゲル膜タイプキット法により抽出し、リアルタイム PCR にて、特異的な増幅を確認できた。							
今 後 の 計 画 ・ 課 題 対 応 方 法	・ 食中毒の原因となる自然毒は多岐にわたるため、LC-MS/MS による自然毒一斉分析における対象自然毒成分の拡大をはかる。 ・ 調理品でも LC-MS/MS による成分分析が可能となるよう抽出方法等を検討する。 ・ 遺伝子解析等による植物種の同定法について、検討する。							

※ 研究成果等の資料があれば添付すること。